

投資銀行のレバレッジとデレバレッジ

負債と自己資本を証券化商品に投資

「高利回り」の証券化商品を高レバレッジで所有すると収益増。
 証券化商品の利回り4%、負債の利率2%とする。さや取り2%。
 投資銀行も預金銀行も証券化商品を所有～反転すると脆弱な金融構造だった

A1	資産		負債／資本	
	証券化商品	120	負債	100
			自己資本	20
	レバレッジ比率＝		5	
	収益＝		2.8	
	自己資本比率＝		16.7%	

→自己資本の一部に

B1	資産		負債／資本	
	証券化商品	220	負債	200
			自己資本	20
	レバレッジ比率＝		10	
	収益＝		4.8	
	自己資本比率＝		9.1%	

←負債が2倍。証券化商品が債務の担保になっていることも。
 ～実際は30倍
 ←債務超過のリスク高い
 過剰債務ではない

資産価格が X %下落すると 8%

A2	資産		負債／資本	
	証券化商品	110.4	負債	100
			自己資本	10.4
	自己資本比率＝		9.4%	

←半減

B2	資産		負債／資本	
	証券化商品	202.4	負債	200
			自己資本	2.4
	自己資本比率＝		1.2%	

←債務超過危機

負債を返済するために資産を売却し、自己資本比率を回復させる
 (自己資本自体の増額は時間がかかるか困難だから)

A3

資産の売却＝

48

←デレバレッジ

資産		負債／資本	
証券化商品	62.4	負債	52
		自己資本	10.4

自己資本比率＝

16.7%

B3

資産の売却＝

176

←デレバレッジ:大量売却、強制売却

資産		負債／資本	
証券化商品	26.4	負債	24
		自己資本	2.4

自己資本比率＝

9.1%

証券化商品の大量売却は、その価格の崩落につながる。

B社の大量売却は、A社の資産の価格下落につながり、その資産売却を強制。

それはB社の資産の価格下落につながり、さらなる資産売却を強制。

つまり、デレバレッジの社会的相互作用。これが資産の価格崩落に帰結。

債務超過危機から逃れるための個別金融機関の行動の連鎖が、資産の価格崩落を実現。
 資産売却は、債務超過危機から逃れるための、私有財産権の市場での行使。